

有志舎の新刊です。2020年2月下旬刊行

# パレスチナ／イスラエル論

早尾貴紀 著

四六判・ハードカバー・344ページ 本体価格 2,600円

パレスチナ／イスラエルの歴史と現在のなかに、自民族中心主義・ヘイトクライムという暴力の極限をみる。

(目次)

まえがき

第I部 国家主権とディアスポラ思想

第一章 ディアスポラと本来性——近代的時空間の編制と国民／非国民

第二章 バイナショナリズムの思想史的意義——国家主権の行方

第三章 オルタナティヴな公共性に向けて——ディアスポラの力を結集する

第II部 パレスチナ／イスラエルの表象分析

第四章 パレスチナ／イスラエルにおける記憶の抗争——サボテンをめぐる表象

第五章 パレスチナ／イスラエルの「壁」は何を分断しているのか

——民族と国家の形を示す五つのドキュメンタリー映像

第六章 パレスチナ／イスラエルにおける暴力とテロリズム

第III部 歴史認識

第七章 イスラエルの占領政策におけるガザ地区の役割とサラ・ロイの仕事

第八章 ポスト・シオニズムとポスト・オリエンタリズムの歴史的課題

第九章 イラン・パペのシオニズム批判と歴史認識論争

〈著者紹介〉

早尾貴紀 (はやお たかのり)：東京経済大学准教授、社会思想史専攻

～版元から～ いま、パレスチナ／イスラエルをめぐる問題は、直視することも放棄したくなるほどの惨状にあります。

パレスチナのガザ地区はイスラエルの建設したフェンスで封鎖され、物流も制限された巨大監獄と化し、パレスチナ人のデモには日常的にイスラエル軍スナイパーによる容赦ない狙撃が加えられ、東エルサレムでは理不尽な家屋破壊が遂行されています。そして、イスラエル社会内部にも国際社会にも、それを止めようとする動きは少ない。このような暴力を対岸の出来事として見るのではなく、パレスチナ／イスラエル問題を、日本も含む近現代世界史の文脈のなかで論じ、またそれをとおして世界と日本を問いなおします。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	<b>パレスチナ／イスラエル論</b> 早尾貴紀 著 四六判・ハードカバー、344 ページ 本体価格 2,600 円	中東史（現代） 社会思想史
	ご担当	<b>新刊</b> ISBN 978-4-908672-37-8 C1021	弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。
	様		

ご注文は (株) JRC (人文・社会科学書流通センター) へ

返品条件付注文です。

FAX：03-3294-2177

電話：03-5283-2230